「選ばれるまち」新座へ
立教と連携したまちづくり

立教大学新座キャンパスの正門前で。志木街道沿いにあるレンガ造りの正門は市民にもおなじみ（相澤利一撮影）

新座市は、11月1日で市制施行55周年を迎える。市域の約半分が東京都に接し、ＪＲ武蔵野線、東武東上線、西武池袋線が通ることから、都心へのアクセスも良好。一方で、雑木林や清流の自然、史跡や宿場の歴史的な面影も残る。さらなる発展に向け、市はどんな将来像を描くのか。キャッチフレーズは「住んでみたい　ずっと住み続けたい　魅力ある快適みらい都市」。市政を担い3期目の並木傑市長、市内にキャンパスを構える立教大学の西原廉太総長、同市出身・在住で立教大学4年の宇野美咲さんが語り合った。

（司会は小川秀樹埼玉新聞社相談役、立教大学文学部教育学科1985年卒）

新座市制55周年記念座談会

並木傑・新座市長
地域との「共創」で明るい未来へ

西原廉太・立教大学総長
新座のまち全体が立教生の教室

宇野美咲・立教大学４年
人がいて場がある強みを生かす

立教大学 総長
西原 廉太 氏

にしはら・れんた　京都大学工学部卒。立教大学大学院文学研究科組織神学専攻博士課程（前期課程）修了、博士（神学・関西学院大学）。立教大学文学部キリスト教学科教授。2021年から同大学総長（現在２期目）。県私立大学連絡協議会会長。京都府出身。63歳。

新座市長
並木 傑 氏

なみき・まさる　慶應義塾大学経済学部卒。豊田通商（トヨタグループ）を経て1996年から新座市議を5期、2006年新座市議会議長、16年から新座市長（現在３期目）。座右の銘は「以和為貴」。趣味は、妻と一緒にこども3人・孫6人と遊ぶこと。生まれは朝霞市。67歳。

立教大学 文学部史学科4年
宇野 美咲 氏

うの・みさき　県立高校を経て、立教大学へ進学。在学中に立教大学ボランティアセンター主催の「立教チームでつなぐ被災地支援プロジェクト（令和6年能登半島地震）」に参画。毎日新聞キャンパる編集部に所属して学生記者も経験。新座市出身。22歳。

人口2・2倍に急増

―まずは市制55周年を迎えた市の歩みを振り返るとともに、これからどんなまちにしたいか、お聞かせください。

並木　市制55周年を迎えるにあたり、市の発展に尽力された市民の皆さま、関係者の方々に心より感謝申し上げます。1955年に大和田町と片山村が合併し新座町が誕生し、その後15年間で人口が急増する中で、1970年に市制施行となりました。当時の人口は約7万7千人、約2万7千世帯でしたが、現在は16万6千人、8万世帯と約2・2倍です。発展の理由としては東京都（練馬区、西東京市、東久留米市、清瀬市）に接していること、交通の利便性（関越自動車道、東武東上線、西武池袋線、ＪＲ武蔵野線）が挙げられます。地の利を生かし、主に都心のベッドタウンとして発展してきており、少子高齢化が進む現在もおかげさまで微増ながら人口は増え続けています。

―西原総長には立教学院が新座の地を選んだ経緯についてお聞きします。

西原　東武鉄道さんから1956（昭和31）年末、約6万5千坪の土地を提供したい旨の申し出がありました。この話がまとまる過程では、当時の初代新座町長・並木庄兵衛氏（並木傑市長のご親族）による私財を投じた地主との調整や尽力がありました。

並木町長は町の合併公約に「都市計画の推進」「志木駅南口新設」「立教学院の誘致」を掲げ、自己資産の一部を調整金にして東武鉄道や地主らに働きかけて用地買収をまとめました。1958年12月に東武鉄道との契約が成立し、立教学院は1959年度中に高等学校を、1963年度末までに立教大学の一般教養課程を移転することを約束しました。高等学校は1960年に予定通り移転したものの、大学の移転は大幅に遅れ、最終的に立教大学の新座キャンパスが実現したのは1990年でした。現在は観光学部、現代心理学部、コミュニティ福祉学部、スポーツウエルネス学部の4学部で、約7千人がここ新座の地で学んでいます。

―並木庄兵衛町長はどんな人物だったのでしょうか。

並木　教育には強い思いを持っていたようです。農家の出身で、北海道帝国大学の農学部を志望したものの一人息子だったため家族の反対に遭い、早稲田大学に進学しました。1949年に大和田町の町長、1955年の合併で新座町の初代町長になりましたが、当時の町にはお金がなく、私財を投げ打って水道事業や道路用地買収など町の発展に尽力したと聞いています（のちに埼玉県議となり副議長も務めた）。

楽しんで地域づくり

―新座では大学と地域が関わる場面が増えています。特に若い人たちの積極的な参加が目立ちます。

並木　大江戸新座祭り（毎年9月開催）の阿波踊りに立教大学野球部が参加してくれたり、運営スタッフとして立教大学の学生がボランティアで携わってくれたりしています。夏祭りや町内会のもちつき大会など、いろんな形で参加してくれているのはとてもありがたいです。新座には十文字学園女子大学、跡見学園女子大学もあり、3大学の学生が連携して地域活動に取り組んでくれています。

―宇野さんは地元の活動に参加する際に抵抗はありませんでしたか。

宇野　ありませんでした。立教大学の学生として関わったことが大きいと思います。学内にある「ボランティアセンター」を通じて紹介してもらったり、新座に住んでいる縁を生かして地域づくりに取り組む方々と一緒に活動することは地域のためだけでなく、自分自身が楽しめました。皆さんも温かく受け入れてくれたので、すごくやりやすかったです。

―新座市はソフト面など立教大学の持つ力を活用していますね。

並木　立教大学の先生方には医療福祉分野、まちづくり、防災、都市計画などさまざまな分野で市の審議会や協議会の委員長や会長などで、ご協力をいただいています。学生の皆さんもシティプロモーション推進懇話会など、若い世代の意見を市政に反映させる取り組みに参加をいただいていますし、プラスカレッジ（旧市民総合大学）では立教大学の先生方が中心となり、キャンパスを開放して市民向けの講座を20年以上実施しています。立教大学の室内プール（セントポールズ・アクアティックセンター）では、夏休み期間中に体育会水泳部による子どもたちへの水泳指導も行われています。

また市内の中学校から立教大学の高等学校への推薦枠が設けられています。さらに今回調べたところ、新座市役所の正規職員約900人のうち何と1割の約90人が立教大学出身でした。

―自治体財政が厳しさを増す中、新座市が立教大学の施設を活用しているのは良いモデルケースでもありますね。

西原　新座キャンパスのプールは自慢の施設です。50㍍の温水プールは日本水泳連盟公認のプールで、先日も韓国のナショナルチームが合宿で利用しました。

並木　新座市には小学校が現在17校あり、そのうち7校は水泳の授業で市内のスイミングスクールの施設を使っていますが、もう施設側の収容能力がいっぱい。そこでご提案なのですが、立教大学のプールを使わせていただき、指導も受けられるとありがたいのですが、今後いかがでしょう（笑）。

西原　さまざまな調整が必要になるかと思いますが、可能な範囲でお力になりたいと思います。

―宇野さんから見た新座の魅力は。

宇野　新座はすごくまちが生きていると思います。まず人がしっかりいるし、お店には活気がある。近所のパン屋さんと塾でアルバイトをしていて、子どもたちや住民の方と交流する機会があるんですが、大江戸新座祭りのボランティアや大学の文化祭などでも子どもたちと会えたりして、にぎわいに満ちている感じがします。機会と場所がしっかりあるのはすごい強みだと思いますね。

「大江戸新座祭り」で来場者の子どもに説明する宇野さん（左）。立教生は本部運営や、子どものための抽選会、会場アナウンスなどでお祭りをサポート

地域連携の一環として県・新座市協力のもと志木街道（埼玉県道・主要地方道40号さいたま東村山線）の一部を『立教通り』と命名

セントポールズ・アクアティクスセンター。体育会水泳部による子どもたちへの水泳指導は、夏休み期間に実施

市民も使える施設を

―若い人が住み続けられることも将来性の一つです。持続性ある発展に向けたビジョンは。

並木　新座市は2023年から10年計画で第5次総合計画をスタートし、その一つにシティプロモーション方針があります。人口減少社会に対応するために魅力あるまちづくりを進め、転入人口を増やすのが趣旨です。新座市は22・78平方㌔のうち39％が調整区域であり、区画整理事業等をすることによって良好な街並みと都市基盤の整備を確立することだと思います。

メインターゲットは30代の子育て世帯ですが、サブターゲットは立教大学、十文字学園女子大学、跡見学園女子大学の学生さんたちです。この方たちが卒業され、就職して社会人になり、家庭を築いたら新座に戻ってきてもらおうと。学生生活で「新座は良いまちだな」と思ってもらえるまちづくりにも力を入れたいと思います。

―市のビジョンに、立教はどのような関わり方ができるでしょうか。

西原　私は新座というまち全体が大学の教室だと考えています。地域と関わる中で学生たちは新座の皆さんに育てられている。そういう意味で新座市は大学教育の生命線の一つです。

もう一つ、池袋キャンパスでは50代以上が対象のセカンドステージ大学を実施し、海外からの関心も集めています。これから極端な少子化に向かう中で大学の生き残り戦略としても多世代にアプローチしていきたい。

これはまだアイデア段階ですが、健康や福祉、心理という学部がある新座キャンパスでも30代、40代、50代の方々にそれぞれマッチする教育プログラムを提供し、学び直しをする場所として使っていただくこともできるのではないかと思っています。また新座キャンパスにはカフェテラスや学生食堂がありますが、大学は夏休みや春休みが長いので年に3分の2くらいしか稼働していない。市民の方が休みの期間に来てくれるような環境づくりが今後の課題ですね。今、バスの駐車場として使っている場所に例えばレストランを作り、市民の皆さんにも使っていただくアイデアなども考えられますね。

―宇野さんは来春社会に出るにあたり、どんな夢を持っていますか。

宇野　マスコミ（新聞社）に就職が内定していて、今後いろんな地域に取材に行くことになると思いますが、どこへ行っても新座は私にとって「帰ってくる場所」として心の中にあります。実家があり、自分が育った立教大学もあり、心強いです。

記者として、地域を作っている方々の思いを発信し、記していきたいです。いろんな地域に自分が帰る場所、帰れる環境を築いていきたいと考えているので、新座を一つの軸として、これから全国や世界に羽ばたいていきたいと思っています。

立教大学という強み

―並木市長と西原総長から、宇野さんへエールを。

並木　新座市から、そして立教大学から卒業して社会人になるわけですが、いろんな所で活躍していただきたいですね。シティプロモーション方針でも申し上げましたが、将来また新座に戻ってきてほしいと思います。また新座の良いところ悪いところを含めて見てアドバイスしていただきたいですね。お仕事大変だと思いますが、体と心の健康を第一に頑張ってくださいね。

西原　宇野さんが立教大学の4年間で学んできたことは「本物のリベラルアーツ」、本物を見極める力や自分の中の物差しを大切にすることだと思うんです。今はインターネットで何でも情報が手に入る時代で、紙媒体の新聞は生き残れるのかと言われますが、新聞は生き残らなければならない。活字は後世に残るわけで真実を書かなければならない。また私たちはコロナ禍を経験し、キャンパスという場の大切さ、そこでしか得られない空気感や人との交流、決してテキスト化されない経験の価値を忘れず残り少ない学生生活を大事にしてください。それをいかに活字にしていくか。立教の卒業生として、メディアに携わる中でぜひとも頑張っていただきたいですね。

宇野　ありがとうございます。

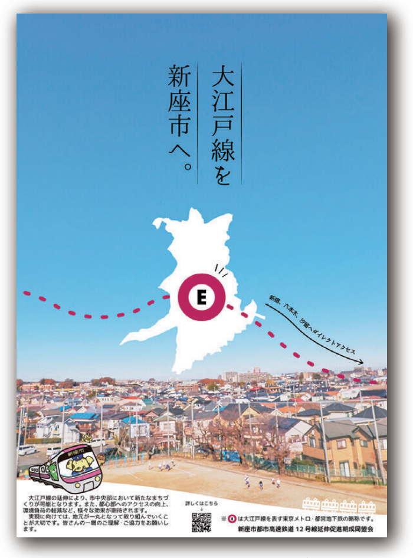
―最後に、きょうの話題の中で新座のまちづくりに役立つ情報はありましたか。

並木　たくさん見つかりましたね。まちづくりの主役は市民であり、医療や教育・福祉などさまざまな関係者が協力することが重要です。一方、大切なのは学ぶこと。市民の幸せ、ウエルビーイングを達成するため何を充実させていくか。いろんな選択がありますが、新座市は中心に知の拠点である立教大学という総合大学があることは大きな強みであり、学生さんや先生方の人的資源や協力、施設の共同利用など多くのメリットがあります。市制55周年という節目の年に、立教大学との連携を更に深めることで、新座市の未来は明るいと確信いたしました。本日は本当にありがとうございました。

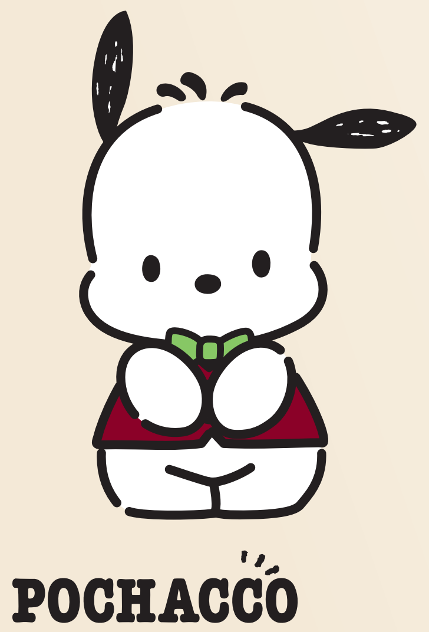
大江戸線「（仮称）新座中央駅」実現に向けて

新座市では、市の中央部が鉄道の不便地域となっているため、都営大江戸線の延伸構想の実現（光が丘～東所沢間）に向けて、庁舎内に「地下鉄12号線延伸促進室」を設置して「（仮称）新座中央駅」構想に関わる取り組みを進めている。延伸の実現に向けては、新駅周辺のまちづくりが重要課題。そこで市では、職員で新駅周辺の将来イメージ図を作成するためのワークショップを実施し、市民から広く意見を募ってアンケート調査を行った。今後は交通需要や地域の開発状況、費用対効果などを踏まえて市民や関係機関と意見交換を重ねながら、より具体的な方向性を検討していく。

未来の新座市を左右するビックプロジェクト。実現へのハードルは高いが、延伸が実現すれば、都心への交通アクセスの利便性はさらに高まり、市内のにぎわい創出にもつながる。今後の議論のゆくえに引き続き注視したい。



大江戸線の延伸を啓発するポスター



新座市制施行55周年おめでとうございます

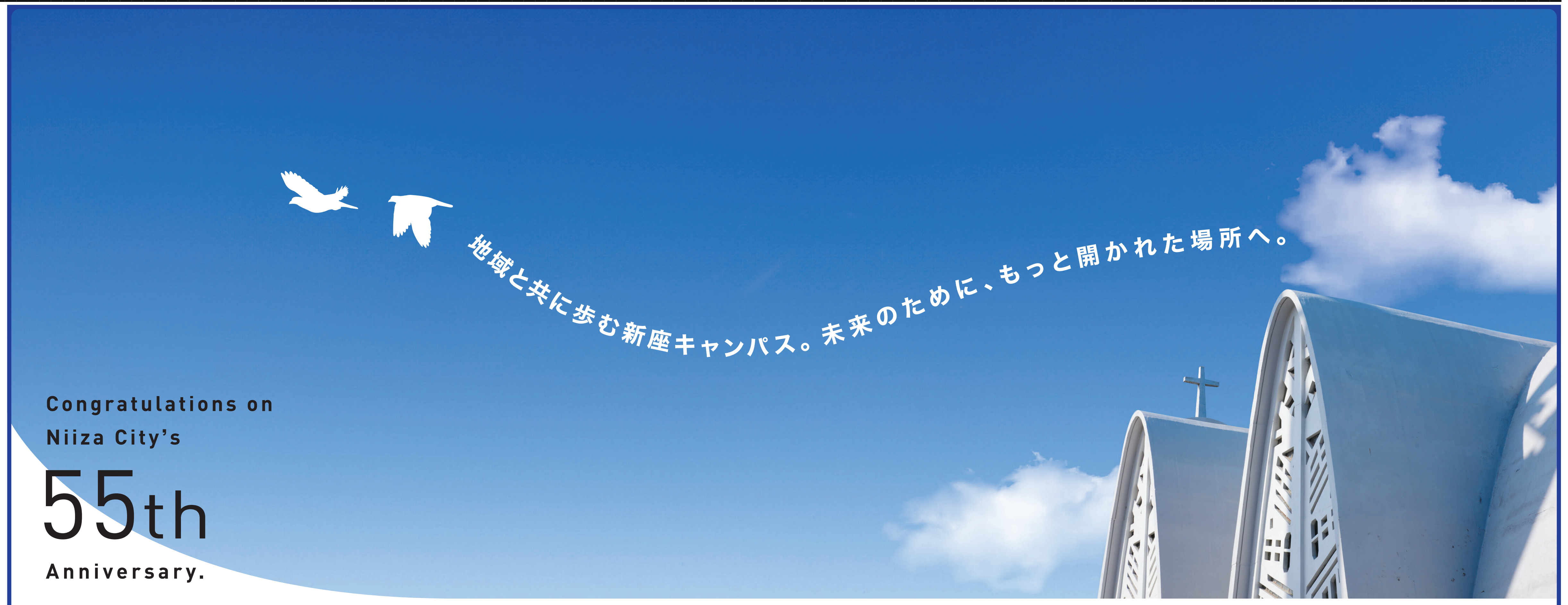
豊かで幸せな暮らしや活気ある
経済・産業の実現に貢献するため、
これからも地域の皆さまと手を携え、
様々な取組みを行ってまいります。

POCHACCO
© 2025 SANRIO CO., LTD. APPROVAL NO.L655503

新座市との官民デジタル連携
市民の皆さまに便利なデジタルサービスを享受いただけるよう、新座市およびトレンドマイクロ株式会社と連携し、一人ひとりに寄り添った「スマホよろず相談」を新座支店などで開催しています。

立教大学との産学連携
新座市にキャンパスのある立教大学と連携し、観光を通じた地域活性化に向け、学生の視点や思いを込めたまち歩きマップ「ぶらってシリーズ」を継続的に制作しています。

武蔵野銀行　More For You
もっと、街・暮らし・笑顔のために


地域と共に歩む新座キャンパス。未来のために、もっと開かれた場所へ。
Congratulations on Niiza City's 55th Anniversary.

立教大学 RIKKYO UNIVERSITY
[池袋キャンパス]東京都豊島区西池袋3-34-1
[新座キャンパス]埼玉県新座市北野1-2-26

2026年4月、池袋キャンパスに環境学部を開設
持続可能な未来を切り拓く環境リーダーの育成を目指して、文理の枠を超えた学びを展開します。